安全データシート

改定日：　03/13/2018

作成日：　05/02/2017

1. 化学品及び会社情報

製品名：　コラーゲン溶液

同義語：　コラーゲン（Collagen）

製造者：　株式会社ニッピ

担当部署：　バイオ・ケミカル事業部

住所：　〒120-8601　東京都足立区千住緑町１－１－１

電話番号：　03-3888-5184

2. 危険有害性の要約

GHS 分類：　該当無し

他の危険有害性：　なし

3. 組成及び成分情報

単一成分・混合物の区別：　混合物

化学名または一般名：　コラーゲン(Collagen)

CAS 名：　Collagen

CAS No.：　9007-34-5

含有量、分子量：　0.1 – 5 mg/mL、約 30 万

他の成分：　酢酸 (Acetic Acid)

化学名または一般名：　酢酸 (Acetic Acid)

CAS 名：　Acetic Acid

CAS No.：　64-19-7

含有量、分子量：　0.3 mg/mL、 60.05

4. 応急措置

吸引：　直ちに汚染地域から新鮮な空気の場所に移す。必要であれば人工呼吸を行う。

皮膚の接触：　石けんと大量の水で洗い流す。

目の接触：　大量の水で洗い流す。

摂取：　意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。

5. 火災時の措置

消火剤：　水、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂

使用出来ない消火器：　特になし

有害性：　火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

消火：　消火活動時には必要に応じて、自給式呼吸装置を装着する。

消火作業者の保護：　消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6.　漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：　屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項 ：　漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

回収、中和：　飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。こぼした場所は大量の水で洗い流す。

7.　取扱い及び保管上の注意

取扱い：　素手で扱わない。必要であれば局所排気装置を使う。保護具の着用や、部屋の排気装置を活用する。

保管：　高温多湿や日光、紫外線を避け、またタンパク質分解酵素との接触を避ける。密封し、冷暗所で保管する。推奨保管温度 2 - 8℃

8.　ばく露防止及び保護措置

暴露許容濃度：　成分名：　酢酸

暴露限界値：

OEL-M：　10 ppm 8 時間

OEL-M：　25 mg/m^2 8 時間

出展：　許容濃度等の勧告-I.化学物質の許容濃度

設備：　局所排気装置の活用が望ましい。

呼吸器の保護：　必要ない。

手の保護：　適当な保護手袋

目の保護：　安全眼鏡

服装：　適当な保護服

9.　物理的及び化学的性質

外観：　形状：　液体

臭い：　データ無し

pH：　3 - 4

融点 / 凝固点：　データ無し

引火性：　データ無し

引火性または爆発性の上限/下限値：　データ無し

相対密度：　データ無し

溶解度：　データ無し

n-オクタノール/水分配係数：　データ無し

自然発火温度：　データ無し

分解温度：　データ無し

10.　安定性及び反応性

反応性：　データ無し

化学的安定性：　光により変質する。熱により変性する。タンパク質分解酵素や酸、アルカリなどで分解する。

避けるべき条件：　強酸化剤、火、高温、直射日光を避ける。

混触危険物質：　強酸化剤

危険有害な分解生成物：　一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物

11.　有害性情報

急性毒性：　データ無し

皮膚腐食性・刺激性：　データ無し

眼に対する重篤な損傷・刺激性：　データ無し

呼吸器感作性又は皮膚感作性：　データ無し

生殖細胞変異原性：　データ無し

発がん性：　データ無し

生殖毒性：　データ無し

特定標的臓器毒性－ 単回暴露：　データ無し

特定標的臓器毒性－ 反復暴露：　データ無し

吸引毒性：　データ無し

その他：　毒物学的特性は十分に調査されていないが、OSHA のリストでは発がん性は無い。急性もしくは亜急性毒性、変異原性および皮膚感作性に対する特別な注意は必要ない。

12.　環境影響情報

生態毒性：　データ無し

残留性・分解性：　データ無し

生体蓄積性：　データ無し

土壌中の移動性：　データ無し

13.　廃棄上の注意

残余廃棄物：　可燃性溶剤と共に、アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。

廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。

なお上記方法による処理が出来ない場合には都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

汚染容器及び包装：　空容器を廃棄する場合、内容物をかんぜんに除去した後に処分する。

14.　輸送上の注意

国連番号：　該当無し

国連輸送名：　該当無し

国連分類：　該当無し

容器等級：　該当無し

海洋汚染物質：　該当無し

MARPOL 73/78 附属書Ⅱ及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質：　該当無し

15.　適用法令

消防法：　非該当

毒物及び劇物取締法：　非該当

労働安全衛生法：　非該当

特定化学物質障害予防規則：　非該当

有機溶剤中毒予防規則：　非該当

製造の許可を受けるべき有害物：　非該当

名称等を表示すべき危険物及び有害物：　非該当

変異原性の認められた化学物質(既存化学物質)：　非該当

変異原性の認められた化学物質(新規届出化学物質)：　非該当

製造等が禁止される有害物：　非該当

健康障害防止指針公表物質：　非該当

鉛中毒予防規則：　非該当

四アルキル鉛中毒予防規則：　非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物：　法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)-酢酸

医薬品医療機器等法/指定薬物：　非該当

麻薬四法：　非該当

化学物質審査規制法：　非該当

PRTR 法：　非該当

16.　その他の情報

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

また、これらは通常の取扱いを対象としたもので、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お願い致します。